

久留米大学を受診した患者さんへ

「ヒト軟骨移植後の軟骨の経時的変化に関する調査研究」の研究に使用する試料について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の試料を使用します。

- 1) 期間：平成 12 年 4 月から平成 26 年 12 月
- 2) 受診科:形成外科・顎顔面外科
- 3) 対象疾患名：軟骨欠損および軟骨変形（先天性・後天性）
- 4) 使用する試料：移植後に何らかの理由で摘出した軟骨組織

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承いただけますよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：解剖学（顕微解剖・生体形成部門）

研究代表者：助教 力丸 由起子

研究分担者：形成外科・顎顔面外科 助教 坂本 有孝
 教授 力丸 英明
 教授 清川 兼輔

解剖学 顕微解剖・生体形成部門

講師 金澤 知之進
 准教授 太田 啓介
 教授 中村 桂一郎

2) 研究の意義と目的：軟骨組織は、体表面の陥凹変形の再建手術で頻用される生体材料の一つです。実験動物を用いた解析では、軟骨移植の組織学的知見が得られています。しかし、ヒトにおいては、移植後の軟骨が生体内でどのように生着し、維持されているのか、組織学的には明らかではありません。このような理由によって、実際の軟骨移植治療で結果にばらつきが生じています。そこで、本研究において、モデル動物での実験結果とヒトの移植軟骨組織での所見が一致するのかどうかを明らかにすることは、実際の臨床で基礎研究成果を応用するために十分な意義があると考えています。そして得られた知見によって、今後の軟骨移植医療に貢献することを目的としています。

3) 研究の方法：この研究では、形成外科にて軟骨移植手術を行った患者さんのうち、移植後に何らかの理由で摘出した軟骨組織の一部を標本作製し、顕微鏡下に詳細な観察を行い、軟骨移植を有効に行うための組織学的知見を得ます。摘出した軟骨組織は、本来手術後に廃棄されるものですので、患者さんの肉体的・精神的・金銭的負担は一切生じません。

4) 研究期間：平成27年12月倫理委員会承認後～平成30年3月31日
(既存試料の対象期間：平成12年4月～平成26年12月)

5) 上記の試料の使用を選定した理由：一度軟骨移植を行った部位では、医学的に特別な理由がなければ、移植部位に新たに傷をつけて移植軟骨の調査を行うことはありません。従って、医学的な何らかの理由（移植量が多かった、移植軟骨の変形が生じた等）があった場合に限定して、摘出した軟骨の試料を採取しています。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：この研究では、個人を特定できるような氏名・診療カード番号・住所などの個人情報登録しません。また、人間関係や会話内容なども一切使用しません。施設内の個人情報管理者が、厳重に元データを保管・管理しております。

7) 研究成果の発表の方法：研究成果は、今後の軟骨移植医療に役立てるために、学会発表を行い、また論文として学術誌に掲載して一般に公開します。

8) 利益相反：本研究は特定企業からの資金援助はありません

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

力丸 由起子（久留米大学解剖学顕微解剖・生体形成部門 助教）
(住所) 久留米市旭町67
(TEL) 0942-31-7541 (FAX) 0942-31-7555